

令和3年10月28日

於

府中市役所

令和3年度第1回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策総務部政策課

令和3年度第1回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 令和3年10月28日(木)

午後4時

閉 会 午後5時15分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄 (議長)

教育長 酒 井 泰

委 員 日 野 佳 昭

委 員 平 原 保

委 員 新 島 香

委 員 増 渕 達 夫

3 欠席委員

なし

4 教育委員会事務局出席者

文化スポーツ部長

関 根 滋

文化生涯学習課長

二 村 善 久

教育部長

赤 岩 直

教育総務課長

矢 夕 崎 幸 夫

教育総務課長補佐

矢 島 彩 子

5 市長部局出席者

政策総務部長

石 橋 純 一

政策課長補佐

高 橋 翔

政策課副主幹

岡 村 耕

政策課主査

斎 藤 麻 美

政策課事務職員

兵 動 早 菜

6 議事内容

(1) 協議題1 第7次府中市総合計画の策定状況について

(2) 協議題2 令和4年度の市政運営に関する基本方針について

7 傍聴者の数

3名

8 発言内容

○市長 それでは、只今より、令和3年度第1回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長並びに教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝を申しあげます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申しあげます。

本日は、協議題1「第7次府中市総合計画の策定状況について」、協議題2「令和4年度の市政運営に関する基本方針について」の2件について、ご協議をお願いいたします。皆様に活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎傍聴許可

○市長 協議題に入ります前に、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされており、本日傍聴希望の方がお見えですので、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

◎協議題1 第7次府中市総合計画の策定状況について

○市長 それでは、会議次第に沿って議事を進めてまいります。本日の協議題は、次第に記載の2件であります。

はじめに、協議題1「第7次府中市総合計画の策定状況について」であります。

現行の第6次府中市総合計画の計画期間が、今年度をもって終了することから、令和2年7月から、府中市総合計画審議会の委員の皆様へ、次期総合計画の策定について、審議を賜りました。本日ご出席の新島委員にも、審議会委員としてご尽力いただき、改めてお礼申しあげます。また、策定の過程においては、多くの市民の皆様にも参画いただきました。コロナ禍にあって、会議の開催そのものが難しい状況にある中、活発なご議論をいただいたと聞いております。そして、このように多くの皆様の思いが詰まった答申を、先日提出いただきましたので、本日は、答申の内容を中心に、第7次府中市総合計画の策定状況について説明し、皆様からご意見をいただければと思います。

内容は、政策課総合計画担当副主幹から説明いたします。

○政策課総合計画担当副主幹 令和3年それでは、お手元の総合教育会議資料1に基づき、令和4年度を初年度とする新しい総合計画の策定状況についてご説明いたします。なお、こ

の資料は、答申の中から、主として、文化・芸術・スポーツ・生涯学習・教育などの分野を中心に抜粋したものとなっておりますので、ご承知おきください。

はじめに、第7次府中市総合計画の策定に当たっては、「市民検討会議」「無作為抽出型のタウンミーティング」「グループミーティング」など様々な機会を通じて、多くの市民の皆さまからご意見を頂戴し、これをもとに、「総合計画審議会」の場でご審議をいただき、最終的に答申としてまとめ上げていただきました。

それでは、早速、資料1に基づき、内容の説明に入らせていただきます。

恐れ入りますが、資料の2ページをお願いします。

ここでは、総合計画の定義や構成、計画期間などについて、お示ししています。

総合計画は、市の最上位計画として、将来の長期的な展望の下に市政のあらゆる分野を対象とした総合的かつ計画的なまちづくりの指針です。計画構成は、「基本構想」と「基本計画」の2階層で構成し、社会情勢や市民ニーズにきめ細かく、的確に対応するため、計画期間については、基本構想が8年間、基本計画が前期・後期それぞれ4年間としています。

恐れ入りますが、資料の4ページをお願いします。

4ページから23ページまでは、「序論」となっておりまして、第7次総合計画の策定にあたって、その背景となる社会潮流と課題、本市の人口や財政の状況と将来見通しといった、基礎的な情報やデータなどを整理しています。

恐れ入りますが、資料の24ページをお願いします。24ページから40ページにかけては、「基本構想(案)」をお示ししています。25ページをお願いします。基本構想は、市のまちづくりにおける基本的な理念を明らかにし、市のめざす新しい都市像及び将来の基本目標を掲げるとともに、その実現に向けた基本施策の方向性などを示すものです。中段以降は、基本構想の第1章となっておりまして、1の「まちづくりの基本理念」は、先人から受け継いだ貴重な財産を礎としながら、これからも市民が主役となり、誇りと愛着を持ってこのまちに住み続けることができるようにまちづくりを進めること、また、時代や環境の大きな変化にも柔軟に対応し、お互いに連携・協力して、地域の課題解決に取り組む、協働によるまちづくりを推進していくことなどを掲げています。2の「都市像」では、まちづくりの基本理念を踏まえた上で、人と人とのつながりや支え合いによって育まれたきずなを紡いで、これを力として、未来を拓くという、強い意志を持って何事にも取り組んでいくことで、誰もが心ゆたかに日々の生活を送ることができるまちを目指して、「きずなを紡ぎ 未来を拓く心ゆたかに暮らせるまち 府中」を新しいまちの将来像、「都市像」として掲げています。26ページに移りまして、3の「基本目標」では、都市像を実現するために、分野ごとに4つの基本目標を定め、まちづくりを展開することとしています。文化・学習分野の基本目標3では、「多様性を認め合い、人と文化が磨かれるまち」を目指すこととしています。

ページをおめくりいただき、27ページをお願いします。

27ページから38ページにかけましては、基本構想の「第2章 まちづくりの大綱」となっておりまして、都市像の実現に向けて定めた基本目標を達成するため、目標ごとに市の

現状と課題を整理し、これを踏まえた上で、基本施策の方向性（めざすまちの姿）をお示ししています。また、市民協働の考え方につきましてもリード文にまとめております。教育、生涯学習、文化・芸術、スポーツなどに関連する基本施策としましては、28ページの(2)子ども・子育て支援の充実と、34ページの(1)互いを尊重しつながら合うまちづくりの推進から、次のページ35ページの(6)青少年の健全育成までの合計7施策となっています。また、39ページから40ページにかけては、基本構想の「第3章 行財政運営の大綱」となっておりまして、行財政運営の基本方針などを定めています。

恐れ入りますが、資料の42ページをお願いいたします。

42ページから235ページにかけては、「前期基本計画」となっておりまして、43ページに記載のとおり、基本構想に掲げる都市像を実現するため、行政運営の指針としての施策の方向性と体系を明らかにするとともに、実効性を確保するための事業執行の指針として主要な取組を明らかにしています。

次に、48ページをお願いします。

48ページから61ページまでは、「第3章 重点プロジェクト（第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）」となっておりまして、前期基本計画の4年間に、重点的かつ優先的に実施すべき取組を示すものとして設定しています。50ページ以降の、3の「重点プロジェクトと方針」では、プロジェクト1「地域でつながり安心して暮らせるまちづくり」、プロジェクト2「未来を担うひとを育むまちづくり」、プロジェクト3「活気に満ちた交流が盛んなまちづくり」の3つのプロジェクトを設定し、それぞれに対応した9つの目標と、その下に位置付けられる17の取組や方針と31の関連施策を掲載しております。教育、生涯学習、文化・芸術、スポーツなどに関連する取組といたしましては、56ページの下段、「取組②の不登校対策の充実」、57ページの上段、「取組① ICTを活用した教育の推進」、同じページの下段、「取組② 学校施設の老朽化対策」、59ページの下段、「取組② 歴史遺産の保存と活用」、60ページの下段、「取組② 府中基地跡地留保地周辺地区まちづくり事業」の中の「総合体育館移転関連事業」、61ページの上段、「取組① スポーツをはじめとした地域資源の活用」、同じページの下段、「取組② 文化・芸術の環境づくりの推進」、以上の7つの取組が対象となっています。

次に、62ページをお願いします。

62ページから、この冊子の212ページまでは、「第4章 分野別の施策」と「第5章 行財政運営分野の施策」といたしまして、計画期間内に取り組む各施策の内容を掲載しております。今回抜粋させていただきました、教育、生涯学習、文化・芸術、スポーツなどに関連する施策につきましては、77ページから176ページまでの15施策となりますが、恐れ入りますが、施策ごとの詳細な説明については割愛させていただきます。

最後に234・235ページをお願いします。

ここでは計画全体の進行管理について記載しておりまして、PDCAサイクルに基づく管理を行うとともに、重点プロジェクト（第2期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）に

については、附属機関を設置し、市民との協働による進行管理を実施予定であることをお示ししております。

以上が、「第7次府中市総合計画（答申）」の内容の説明となります。なお、今後につきましては、この答申を基に、市が「第7次総合計画」の素案を作成いたしまして、市議会へご報告したのちに、11月下旬から12月下旬までの約1か月間、パブリック・コメント手続を実施してまいりたいと考えております。

以上で、協議題1「第7次府中市総合計画の策定状況について」の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長 説明が終わりましたので、教育委員の皆さんからご意見などございましたらお願いいたします。

○日野委員 質問と意見を申し上げます。第6次府中市総合計画の評価や改善についてお聞かせください。今回の第7次の答申の第5章に、行財政運営に関する施策があり、行政評価、外部評価、市民意識調査を行い、改善の検討を行うとあります。第7次総合計画を策定する上で、第6次の点検・評価・改善がどのように反映されているのでしょうか。

2つ目として、答申全体としては、教育、生涯学習、文化、スポーツなど、教育委員会に関することを含めて網羅的に丁寧に作っていただいている、審議委員の皆さんなど、関わってくださった方に敬意を表します。さて、衆議院選挙を見ると、今、国民の関心事は、経済と将来の生活不安、特に年金問題のようです。国民が安心・安全であることは、まちづくりの基本であるべきと考えます。第7次総合計画の基本構想・基本目標4において、「魅力あふれる うるおいと活力のあるまち（都市基盤・産業）」、基本計画の中では、重点プロジェクトとして、第2期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略と計画されておりますが、経済、年金問題に関する具体的な記載が少なく思います。今回は、教育、文化、スポーツを抜粋した資料ということですが、ご検討よろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。今年度までを計画期間としている第6次総合計画の評価をどのように第7次に生かしているか、あるいは、第7次策定後に振り返って第6次の評価をどのようにしていくかということですが、これについては、事務局から。

○政策課総合計画担当副主幹 はじめに、第6次総合計画の評価ということですが、成果も含めて説明をさせていただきたいと思います。第6次につきましては、「市民との協働」を柱としたまちづくりを推進していくということが大きなポイントでございます。その中で、市民協働を進めるために、市民協働都市の宣言や市民活動センター「プラッツ」の開設などを行いながら、取り組んでまいりました。また、府中駅南口駅前の再開発事業ですとか、学校給食センターの整備、多摩駅の改良整備、学校施設老朽化対策事業の推進、それから、地域福祉コーディネーターの配置、自主防災連絡会の創設、市立保育所の再編、さらには、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催など、様々な事業を展開してきたことを成果として考えているところでございます。続きまして、評価でございますが、第6次府中市総合計画の後期基本計画で取り上げました重点プロジェ

クトにつきましては、全部で27あるプロジェクトのうち、9割以上の事業が、順調に進捗をしているところでございます。また、83ある施策のうち、概ね7割程度の施策が順調に進捗していたところですが、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、事業の中止や縮小などもございまして、若干評価を下げているものもございます。これらの様々な取組の推進によりまして、市民意識調査におきましては、9割を超える市民の皆様から、府中市は「住みよい」とのご回答を頂いておりまして、目指す都市像「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現に向けて着実に進捗しているものと認識しております。これらの評価を踏まえて、第7次総合計画にどのように生かしていくかというところでございますが、引き続き、これまで進めてきた取組を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症への対策や、新しい生活様式への対応、地震や風水害など自然災害への備え、少子高齢化の更なる進展と共生社会の実現、地球環境への配慮、デジタル化の進展、SDGsへの対応など、様々な課題が生じているものと認識しておりますので、こうしたものを把握しながら、環境の変化に柔軟に対応していく視点を持って、新しい計画を策定し、各施策を推進していくことが肝要であると認識しております。以上です。

○市長 評価、そして、第7次の策定に当たっては、今お話をさせていただいたことを生かしてきたということでございます。それから、地域経済についての内容が少ないのではないかとご指摘を頂いております。基礎自治体ですと、どうしても経済全般についての施策というのは、なかなか具体的に取組むことが難しいのでございますが、ただ、重点プロジェクトとして、中心市街地の活性化、そして、活力を生み出すための拠点の整備など、しっかりと掲げておりますので、こういったまちの整備を通して、商業の活性化に取り組んでいくということでございます。そして、これからは、ゼロカーボン社会に向けて、様々な研究や議論を重ねていく時代になると思っております。総合計画自体には、具体的な記述はありませんが、市内の大学や企業との連携に向けて、現在準備を進めているところであります。ありがとうございました。

○平原委員 私からは、感想や意見になります。基本構想の教育の部分で、基本目標3に「多様性を認め合い 人と文化が磨かれるまち」ということで、34ページに具体的な基本施策が記載されています。その中で、冒頭の(1)「互いを尊重し、つながり合うまちづくりの推進」の、めざすまちの姿の2つ目、「地域のつながりを深め、社会のあらゆる分野で、性別や国籍、文化的背景などに関わらず、すべての人がお互いを尊重し合い、それぞれの個性と能力を発揮することができている」と掲げられています。これは、めざすまちの姿であると同時に、学校教育においてもそのまま適用されて、重視すべきだと考えています。一方、序論の中では、コロナによって三密を避けるとか、高齢化社会において孤立化が懸念されるなど、人と人とのつながりが絶たれようとしているという懸念が示されておりました。これは、教育で大きな課題になっているいじめや不登校の問題においても、孤立化させることを防ぐということが、非常に大事な点だと私は考えています。このようなことから、児童・生徒が孤立化することを防ぐとともに、対応する教職員の孤立化も防ぐ、それから、困っているご

家庭の孤立化を防ぐ、こういったことが欠かせないと感じました。そして、困った時に支え合える人間関係が形成されて、助けを必要としている人へ寄り添えるまちにすること、また、これと同時に学校教育においては、助けを必要としている児童・生徒へ寄り添える学校にすることが、重要であるということの本施策から感じたところです。

○市長 ありがとうございます。コロナの前から高齢化が著しく進展している中で、高齢の方の孤立化・孤独化などというものが、顕著になっている社会情勢であると思っています。そこで、子どもたちの環境においても同じようなことが言えたのではないかと思います。コロナ禍に入って、非常にそれがスピードアップしてしまったというのが一方であると思います。我々は、コロナは収束を迎えることになるだろうと思って事業を進めているのですが、この総合計画のめざす都市像にあるように、「きずなを紡ぎ」に端的に表されているように、やはり、人と人とのつながりをこれからの一番大切なところとして、地域でつながることの重要性をこの計画から読み取り、全ての皆さんにご理解をいただき、しっかりと施策を充実させていきたいと思っています。昨日、今日、市内にある大学の学生さんと意見交換をする場があったのですが、府中市には、外国からお越しになって、暮らしている方々が非常に多くいらして、コロナ禍だからこそ、コミュニケーションを取ることが難しく、あるいは、言語が異なることにより市の情報が十分に伝わらないなどといった課題についても、お聞かせいただきました。したがって、世界とのつながりを常に意識することが、学校教育における外国語の学びについても現実的なものとして子どもたちも捉えていくことができるでしょうし、先日、第一小学校へ見学に行き、ICT教育の現場を見させていただきましたが、これこそ、自分とは違う個性や考えが、ICT機器という道具（ツール）によって、共有できるという学習の場面も見てまいりましたので、ご指摘いただいたことをしっかりと捉えながら総合計画をしっかりと進めるよう、努めていきたいと思っています。

○増淵委員 資料を見させていただきまして、多くの方が参画しながら作られたということであり、非常に良くできているというのが第一の印象です。今年から中学校、昨年から小学校で新しい学習指導要領が始まっています。その理念の一つが、「社会に開かれた教育課程」ということで、学校での学びと自分の生き方、社会の在り方をつなげていくということが多く意識されています。例えば、この総合計画を子どもたちも見ているのではないかと思います。8年間の計画ですので、小学4年生の子たちは、この計画の最終年度は18歳で、選挙権を有する年齢になります。主権者教育、成年年齢の引き下げなどの観点からも、子どもたちが参画できるようになると、良いかたちになるのではないかと思います。それから、キーワードの一つになるであろう「誇りと愛着」については、ぜひ子どもたちにもこういった思いを持ってほしいと思いますので、教材化できるとよい思いながら、見させていただきました。

それから、具体的なところで、感想になりますが、35ページに「学校教育の充実」として、5つのめざすまちの姿が記載されていますが、4つ目の項目の中に「ふるさと府中の将来について話し合い」とあり、これからの府中の子どもたちを育成するという大きな観点で

書かれていて、この項目は2番目ぐらいに上げてよいのではないかと思いました。それと同時に、府中の将来について話し合い、将来の府中を何らかのかたちで担っていく子どもたちの育成を、教育としてどのように進めていくのか、改めて考えていかなければいけないと思いました。

それから57ページになりますが、「ICTを活用した教育の推進」の項目で、方針として「ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、子どもの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを実現します」とありますが、これからは指導方法が大きく変わると思いますので、その辺りを的確に捉えて表現していると思います。それと同時に、「学校組織・人材の支援」の施策に入るかと思いますが、学校の先生方の仕事ぶりが大きく変わるということも含めていくと、さらにICT教育への市民の理解が深まっていくと思いました。

それから169ページの施策50の中の不登校対策について、前回もお話しましたが、子どもたちの今の状況を見ると、不登校対策は喫緊の課題であると思っていて、その中でも、昨年度のデータを見る限りですが、170ページの「不登校児童・生徒の相談率」が大きな課題であるとも思っています。目標値を100パーセンにするのはその通りであると思っていますが、これを、不登校特例校の設置を柱にしながらもどのように進めていくのか、全体的な取組が必要であると思いました。

最後に、172ページの指標にタブレットを使用した授業の実施率について記載がありますが、今年度タブレットを配付していただき、様々なところで使用できるようになりました。この取組は4年間の取組になるかと思いますが、授業だけでなく、子どもたちがあらゆる場面で使えるようになることを目指せばいいと思いながら、見せていただきました。

幅広く様々なところまで網羅されていますし、冒頭に言いましたが、ぜひこの計画を子どもたちに見せたいと思いながら読ませていただきました。ありがとうございました。

○市長 ありがとうございました。委員おっしゃるとおり、子どもたちが総合計画を読んで、理解をしていくということは、学びながらまちへの愛着を持ち続け、自分の未来を考えるとともに、まちの未来を一緒に考えてくれる、それこそ主権者教育と言ってしまえばそれまでですが、子どもたちの人間性が幅広く、そして豊かに成長していくのではないかと思います。どのような形で子どもたちに示すことができるか分かりませんが、概要版の作成や広報紙などでも子どもたち向けに策定についてお知らせすることはできますし、学校で先生たちに噛み砕いて伝えていただく機会などがあればいいと思います。また、タブレット端末という優れた道具がそろいましたので、まちの将来をともに考えるということについても、ICT教育の中に取り入れることにより、幅が広がるといいと思ったところです。

それから、不登校について、このことは、長年の課題であり、そしてなかなか解決のできない大きな問題ですが、この8年間の間に、不登校特例校の設置を含めて新たな施策展開を必ず行っていきたいと市長部局の方でも思っていて、皆さんと協力して進めていきたいと思います。

○新島委員 私は、この審議会に委員として入らせていただきましたが、教育委員会の定例会と重なる日も多く、たくさん参加できずに残念でありましたが、初めて総合計画の審議会に参加させていただいて、人が生きていくということは多岐にわたっていて、いろいろなことを考えていかなければならないと感じた次第です。雑ばくな感想になってしまいますが、教育委員会で扱うことは、生まれてから18歳ぐらいまでの子どもたちのことが中心ですが、まちを作るということは、18歳を過ぎて70、80、90と何倍も生きていく中でまちづくりに関わっていくということであり、教育が一部分に感じてしまったりもしましたが、でも、そのベースがなければまちづくりにもつながらないし、子どもたちが、住んでいくまちのことを考えながら、生きていく術を学んでいくということはとても大切なことであると改めて感じました。

気になった点としては、施策51の教育環境の充実の部分で、「校舎のトイレで便器の洋式化率100パーセントとなった学校の割合」という指標がありますが、たしかに、便器を洋式化していただいているのですが、現時点では、一部のトイレに限られている状況ですので、最終的には、全ての便器が様式化されるよう、環境の整備には力を入れていかなければいけないと日々感じているところです。

また、ICT化がコロナ禍で進んだことで、子どもたちは対応が早く、すぐに馴染んでいきましたが、後れを取っているのは高齢の方々であると思うと、社会が二分化されていくのではないかということを感じることがあります。例えば、ワクチンの接種証明はデジタル化を望む方もいれば、紙を望む方もいて、その辺りは、多様化されていてどちらかを選択できるといったような、皆が困らないような対応を、一つひとつ取っていける、柔軟な大人の対応を子どもたちは見ていると思うので、そういう姿を大人として見せていくことも、まちづくりの一つなのではないかと感じています。雑ばくな感想で申し訳ありませんが、以上です。ありがとうございます。

○市長 はじめに、新島委員には、総合計画審議会委員としてご出席いただき、ご発言いただきました。本当にありがとうございました。今お伺いしたところでは、教育委員会定例会と日程が重なってしまったということもあったようでして、大変だったと思いますが、感謝申し上げます。

そこで、これからの8年間だけでなく、その先もさらになのですが、学校施設、また、学ばふ場である学校の環境をしっかりと充実させていくということは大切なことで、早い時期に建て替え対象になっている学校はよいのですが、もう少し先に建て替えの対象になる学校については、特にトイレに大きな課題があると認識をしています。できる限り児童・生徒の生活に合わせていけるように整備をしていくこと、これは、校舎の更新の対象でない学校も含めますが、しっかりと目を向けることが大事であると改めて思いました。

それから、先日、教育長からICTの活用について報告をいただき、小学生はすごく積極的に取り組んでいて、自分のものになっているようであるとの状況をお伺いしました。今回、プレミアム付きの商品券をデジタル版で発行したところ、高齢の方であまり機器が得意でな

い方からは、様々ご意見を頂いております、「非常に便利であり、これからはデジタル化してほしい」という世代と、世代でくくってはいけないのかもしれませんが、これまでのやり方を急に変えるということに対してなじめないというご意見も頂いております。そして、子どもたちがこの状況を見ているというのも間違いありませんので、常に二分化している状況にあることを意識して、市政の運営もしていかなければいけないと思います。繰り返しますが、昨日と今日、大学生と意見交換をしている中でも、二分化している状況にあることは、非常に強く感じました。ありがとうございました。

○**日野委員** 今回のプレミアム商品券について、今回は、私の病院では取扱いをやめました。説明会にも参加して積極的にやろうと決めたのですが、トラブルがあった時に、事務職員の手間がかかって対応ができないということで、やめてほしいと言われ、断念しました。

○**市長** 承っておきます。ほかにいかがでしょうか。

○**教育長** 教育委員会の事務局の長としての教育長の立場から、少しお話をさせていただこうと思います。

急速な社会変化や教育を取り巻く環境が本当に大きく変わる中、こういった社会情勢に的確に対応して、そして、学校、地域、関係機関等と連携し、一体となって子どもを育成していくことが求められている重要な時期となっていると思っています。教育委員会では、この度お示しいただいた第7次府中市総合計画を踏まえ、これとリンクする形で、第3次の府中市学校教育プランを作成しまして、良好な教育環境の維持・発展を実現し、子どもたちの教育の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

総合計画の中にも含まれていることですが、具体的には、児童・生徒に社会を主体的・創造的により良く生きる力を身に付けさせるためには、ICT機器を積極的に活用し、教育内容の充実を図るとともに、児童・生徒一人ひとりの特性に応じた適切な教育を受けられるよう特別支援教育を推進することも重要だと考えております。先ほどお話もありましたが、教員の働き方改革や指導力の向上、各種支援員の適正な配置及び外部人材の活用、地域との連携の強化等の取組を推進し、学校の組織力の強化を図ることに力を入れていく所存です。特に、長く続くコロナ禍においては、これまで以上に児童・生徒が抱える悩みや課題に的確に対応し、支援できるように、学校内外の相談体制を充実するとともに、関係機関と連携をしながら、きめ細かい支援の充実にも取り組んでいく必要があると思っています。

そして、本市の喫緊の課題でもある、いじめ防止対策と不登校対策については、総合的な見直しを図るとともに、不登校対策の一環として、不登校児童・生徒の実態に配慮した教育を実施するための不登校特例校の設置についても検討してまいりたいと思っています。

教育環境の充実については、学校施設の老朽化への対策として、学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき、改築事業を実施することとし、今年度に策定を予定しております「府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」を踏まえて、小規模化や大規模化が見込まれる学校の個別具体的な対応を検討することで、公平な教育環境を確保するとともに、同

時に進める老朽化対策事業での各学校の施設規模や改修順序、施設の在り方などに反映していくつもりでございます。

また、子どもたちの生涯にわたる学びを豊かにする文化・スポーツ施設の充実・発展にも尽力してまいりたいと思っております。

今申しあげた施策等を確実に実施することが、お示しいただいた第7次府中市総合計画の中で主に教育分野についての基本方針として示されている「多様性を認め合い、人と文化が磨かれるまち」の実現につながると考えています。今後とも、市長部局のご協力を頂きながら、府中の教育の充実、発展に努力してまいりたいと思っております。

○市長 どうもありがとうございました。第7次総合計画におきましても、教育委員の皆様のお力添えを頂きながら、都市像の実現と基本目標の達成に向けて、文化・芸術活動の推進、スポーツ振興、そして、学校教育の充実などに、引き続き取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、協議題1「第7次府中市総合計画の策定状況について」につきましては、以上とさせていただきます。

◎協議題2 令和4年度の市政運営に関する基本方針について

○市長 続きまして、協議題2「令和4年度の市政運営に関する基本方針について」です。協議題1にも関連しますが、本市では、来年度の市政運営や、施策展開を検討するに当たり、「令和4年度の市政運営に関する基本方針」を策定いたしました。本方針に基づき、教育委員会におかれましても、来年度の施策展開についてご検討いただき、今後、予算編成に向けて方針等をご提示いただきたいと思いますと思っております。

それでは、私の方から、資料2に基づき、1ページの前文を説明させていただきます。来るべき令和4年度は、今後の本市の新たな未来を描く第7次府中市総合計画が始動する年となります。これまでの第6次府中市総合計画期間においては、厳しい財政状況にありながらも、選択と集中による重点施策の推進や、協働によるまちづくりを進めることにより、目指す都市像「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現が図られたものと捉えています。新型コロナウイルス感染症との闘いは、依然として収束の兆しが見えず、また、過去には考えられなかった自然災害が頻発するなど、現在の本市を取り巻く状況は厳しく、将来を展望しづらい状況にあります。

このような中、令和4年度一般会計予算は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による景気の停滞が予想され、市税等の一般財源は、コロナ前と同等の収入が期待できない中、高齢化の更なる進展により、扶助費や繰出金などの社会保障経費の増加への対応が迫られています。さらには、新庁舎建設や学校施設老朽化対策等を始めとした計画に基づく投資的事業に加え、修繕などの経常的な事業の実施も見込まれることから、極めて厳しい予算編成となることが見込まれます。

しかしながら、このような状況においても、令和4年度は、現在策定を進める第7次府中市総合計画で掲げる各施策や事業を的確に捉えつつ、新しいまちづくりのスタートを、着実に切る必要があります。時代や環境の大きな変化に柔軟に対応しながら、新型コロナウイルス感染症の流行による混とんとした状況においても新しい未来を拓くため、これまで市と市民との協働や支え合いによって育まれた絆を紡ぎ、誰もが心豊かに暮らすことのできるまちを目指して、次の視点で市政運営に取り組むこととします。以上が、前文となります。

以下、詳細につきましては、政策総務部長から説明いたします。

○政策総務部長 それでは、1の市政運営につきまして、ご説明いたします。

はじめに、(1)として、第7次府中市総合計画前期基本計画の始動に当たり、とりわけ、重点プロジェクトに位置付ける取組や各施策の主要な取組については、計画期間の4年間でどのように事業展開を図るのかをあらかじめ念頭に置き、遅滞なく着手することとしています。

(2)は新型コロナウイルス感染症への対応について、引き続き、市民の命と生活を守ることを第一とし、感染状況に応じた各種対策と、市内経済の再活性化の方策を両立させる必要がある。このため、関係機関・関係団体との連携・協力を継続しながら、感染状況を見極めた効果的な施策を検討することとしています。

2ページに移りまして、(3)は、令和4年度末から始まる新庁舎への移転を好機と捉え、ハード面・ソフト面の両面から市民サービスの更なる向上を目指すとともに、業務の効率化や職員の働き方改革などの視点も取り入れながら、機を逸することなく事業展開を図ることとし、とりわけ、ICTやデジタル技術の活用については、導入に向けて積極的に取り組むこと、(4)は、東京2020大会開催の経験を、スポーツや文化だけでなく、あらゆる分野における新たなまちづくりの展開として活用するとともに、多様性社会の実現と、まちへの愛着を醸成するレガシーの一つとして育むことを示し、(5)では、人口減少や人口構造の変化など大きな社会的課題については、未来を見据えて着実に取組を進めるとともに、本市独自の将来的な課題については、地域資源をにぎわいの創出に生かすなど、魅力あふれるまちづくりを目指した施策展開を図ること、さらには、「SDGs」の理念のもと、持続可能な地域づくりに向けて、目標の達成に寄与する施策を推進することとしております。

また、(6)として、頻発する自然災害に備える力の強化や、地域における更なるつながりや支え合いの仕組みづくり、また、誰もが安全に安心して暮らせるまちの実現に向けた取組について示し、(7)では、法令遵守のもと、職員一人ひとりが経営的な視点を持って施策展開を図ること、さらには、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業の十分な検証と改善について示しております。以上が、令和4年度の市政運営に関する基本方針でございます。

現在は、本基本方針、及び、本日の資料にはございませんが、令和4年度の前編成方針に基づき、各部において来年度の部の運営方針を作成し、新たな事業展開等について検討を進めていただいております。11月には、各部から、部の運営方針をご説明いただき、課題

を共有するとともに、来年度の方向性について確認をする場を設け、来年度の予算編成へと繋げてまいります。以上でございます。

○市長 説明が終わりました。それでは、教育委員の皆さんから来年度の市政運営や今後の予算編成に向けて、ご意見などございましたらお願いいたします。

○日野委員 予算編成に対する意見ということで、お話をさせていただきます。日本では、バブル崩壊以後、この20年以上、成長が止まっています。リーマンショック、大震災、コロナ禍が続き、GDP、賃金は停滞し、さらに、取り巻く世界は緊張、紛争が絶えず、人々は将来への不安で精神は冷え切っています。子どもたちにも少なからず影響を与えております。政治家、行政に期待されることは多く、抜本的な対策が必要とされています。国、東京都に任せて批判ばかりするのではなく、市としても取り組むべきと考えます。具体的には、経済に対する活性化への施策、新しい産業など、高齢化社会に向けた抜本的な対策、年金対策など、少子化対策、格差拡大による貧困対策、税制政策など、具体的に人々が安心できる施策を検討し、予算編成、総合計画にも反映していただきたいと考えます。ご検討よろしく願います。

○市長 ありがとうございます。先ほど、総合計画についても、経済対策など、ご意見を頂きました。そして、来年度の予算編成、市政運営に関する基本方針についても、ご指摘いただいたとおりでございまして、府中市民だけでなく、国民全体が、バブル経済の崩壊以降、所得が変わらず、不安を募らせている状況にあるということは認識を同じにさせていただいております。そういった中で、地域における支え合いの仕組みづくりをどのようにしていくか、福祉コーディネーターの配置もこの1、2年で進めさせていただきました。また、先ほども申しあげましたが、新たな環境問題への取組として、市内の大学や企業との連携も進めようとしているところであります。なかなかこれといった具体的な答えは出てきませんが、日々市民の皆さんと協働しながら、いつ起きるか分からない自然災害への備えや、その他安心してこのまちで暮らし続けられる施策を具体的にお示ししながら、予算編成にはこれからきっちりと詰めていきたいと思っております。ありがとうございました。

○平原委員 私は、ICT教育推進への予算措置ということで、お話をさせていただきます。昨年度、GIGAスクール構想に伴い、府中市では非常に手厚く予算措置をしていただいたことによって、校内の回線の高速化や一人1台のタブレット配備など、非常に迅速に対応していただきました。そのおかげで、先ほども話題になっていましたが、今年はこの環境を生かして、小中学校において先生方のICT活用意識が非常に高まっており、授業づくりも進んでいると感じています。先週と今週水曜日に小・中連携の日がありましたので、授業を拝見させていただきました。その中で、児童・生徒がタブレットを活用する姿を目にするとともに、先生方が、授業の中に取り入れていこうという意欲が随分と高まっていると感じました。特に印象に残ったのは、特別支援学級において行われた高学年の授業の中です。日本各地の特産品を知りながら旅をするという調べ学習を行う中で、始めは戸惑って分からなかった子どもが、先生の支援によって情報が画面に表示され、その時に声を上げて喜んでいる姿、

そして、先生とともに喜びを共有している姿を見まして、これこそICTの一つの力であると感じました。教育を進めていく上で成果は上がりつつあり、これから検証も必要ですが、高速化に対応した通信の環境整備の必要性も、各学校から声が上がってきているように感じます。そういった意味で、昨年度に続き、通信環境の整備等の予算措置をしていただけると、更に活性化していくのではないかと感じています。よろしく願いいたします。

○市長 ありがとうございます。私も第一小学校に授業を見に行きました。そして、平原委員のご指摘のとおり、学び方が複合的になったということ、そして、教科書や専門資料だけでなく、通信機能を使うことによって、調べ学習などではすごく幅が広がったと実感しました。まさに、情報や知識を共有して、お互いに理解できたときに生まれる共感、子どもたちの心にも有意義な経験として残るのだと思いました。そこで大事なものは、道具がスピーディーに使えることですから、通信環境が滞っては学びも止まってしまうので、そういった弱点があるのであればこれを克服しないといけないので、その辺りは事務局にも調べてさせて必要な予算措置を講じていきたいと思います。それから、機械ですから、5年ぐらいすると更新の時期を迎えますので、そのことも念頭に置きながら、予算編成もしていかなければいけないと思った次第です。ありがとうございました。

○新島委員 今お話に出ていましたが、コロナ対策の中で、トイレや水回りの改修、また、ICT機器の導入など、昨年度は本当に予算措置を頂き、対応いただいたこと、感謝申しあげたいと思います。その中で、日本は街の中のWi-Fi環境の整備が、先進国の中でも遅れを取っているということが、最近、教育委員会の中でも話題になっていることでして、やはり、ご自宅にWi-Fi環境がないお子様も中にはいらっしゃいます。学校に行けばタブレットも使えますが、文化センターや身近な公園などでも使えるようになれば、外にいても学びを得て、今ここで調べたいなど、子どもの瞬発力に対応できることもICT機器の良いところなのではないかと思うので、まちづくりの中で、Wi-Fi環境を整備するということも併せて考えていただけると、もっともっと良くなると感じているところです。

○市長 ありがとうございます。確かに、家庭によってICT環境が異なるということは、認識をしております。どのようにすることが公平で、どう支援することが一番効果的であるのかはしっかり考えていかなければいけませんし、公共施設でタブレットを使って学ぶことができる環境の整備については、促進していかなければいけないと思いました。やはり、子どもたちはどこで気づくか、どこで発見するか分かりません。その気づきや発見がどのようにつながっていくかは分かりませんので、幅広く環境の充実を図らなければいけないと思いました。ありがとうございました。

○増淵委員 私からは、オリンピック・パラリンピックについてです。コロナの感染が拡大していた時期でしたので、様々な思いを持ってオリンピック・パラリンピックを迎え、何とか無事に終わったというところではないかと思えます。教育の観点からすると、コロナの感染とは別に、オリ・パラ教育としてこれまで取り組めなかったことに取り組むことができ、意義があったと思えます。オリンピック・パラリンピックで得たものを整理して、今後どの

ようにいかしていくのかということが、来年は問われるのではないかと思います。今年、無事に終わってよかったというだけでは、何のレガシーも残りませんので、これを危惧しています。学校教育だけでなく、社会教育も含めて、オリンピック・パラリンピック、そして2019年のラグビーワールドカップで得たものはたくさんあり、市にとって様々なレガシーが残っていると思いますが、これを大切に育んでいくということが、これから市に課せられた課題であろうと思っています。そして、どうやって育んでいくのかという具体策に、予算化をしていくということは必要なのではないかと思います。せっかく生まれたスポーツを愛好する心や、様々な人との交流、違いを乗り越えて協力する気持ち、オリンピック・パラリンピアンを呼んで学ぶということなどは、ぜひ続けていけるといいと思っています、そのことをお願いしたいと思っています。

それから、もう一つは、来年度から始まる小学校での35人学級ですが、学校の先生たちの若返りが進んでいる中で、志半ばで教員を辞めていく人たちがいます。100の施策よりも1人優秀な教員を獲得した方がよっぽど学校教育としては進んでいきます。教員の任命権者は東京都教育委員会ですが、育てるのは基礎的な自治体である府中市になります。教員の育成やケアなどについても、具体的な取組を進める必要があると思いますし、市長部局と教育委員会とが一緒に考えていく必要があると思っていますので、ご配慮いただけるとありがたいと思っています。

○市長 ありがとうございます。東京2020オリンピック・パラリンピックが、今年開催されてことは事実でありますし、また、多くの国と地域から多くのアスリートたちがこの東京にお越しくくださったことも事実で、子どもたちが実際に観戦することはかないませんでした。様々な報道等によって、大会の様子は、子どもたちの心にきっと届いていると思っています。したがって、これを今後どのようにいかしていくか、あるいは、子どもたちが競技やアスリートたちと今後触れ合うことができれば、レガシーとしてもずっと残っていくことになると思いますので、市長部局といたしましては、特にホストタウンの事業は、しっかりと行ってきましたし、市内のまちが会場になった自転車ロードレースについても、実際に見ることができた人は少ないかもしれませんが、映像等に残っており、歴史的な遺産に触れてくれたアスリートたちもたくさんいらっしゃいますので、今後、学校教育の現場でも活用していただきたいと思いますし、広く社会教育という面でも、このレガシーを更に広めていく活動にしっかり取り組む予算も編成していきたいと思っています。

それから、35人学級が進んでいくことに関連して、教員の人材育成についてお話いただきましたが、これこそ、教育委員会の皆さんと市長部局が連携して、先生たちを大切に育てていくということは、永遠のテーマでもあると思っています。ありがとうございます。

○教育長 教育委員会といたしましては、学校の主体性を尊重しつつも、教育委員会として学校をより良く導くとか、学校を支えるとか、学校とともに歩むという自らの機能と権限を十分に発揮して、府中市立の学校の教育活動の充実・発展に向けた支援に全力を挙げていかなければいけないと思っています。先ほどから話題になっていますが、学校におけるICT

環境は、昨年度から重点的に整備していただいたことにより、劇的に変わったと思っています。各教室の大型提示装置や、一人1台のタブレット端末が、授業で積極的に活用されており、児童・生徒の学習の充実に、大いに役立っていると思っています。そして、こうしたICT機器を活用し、不登校気味の児童・生徒やコロナ感染に対する不安から登校が困難な児童・生徒に対して、授業のリモート配信を実施して、学習機会の確保にも配慮するような学校も出てきています。なお、現在、コロナ感染者数は、大幅に減少していますが、感染が再度残念ながら拡大し、そうならないように祈ってはいるのですが、一斉休業の措置を取らなければならなくなった時に備えて、各学校にはリモート授業ができるような準備もしてもらっているところです。教育委員会としては、今回お示しいただいた基本方針を踏まえながら、今後も良好な教育環境、教育条件を確保しまして、子どもたちの教育の充実に努めてまいりたいと考えており、今後とも市長部局のご協力を賜りたいと思っています。

○市長 ありがとうございます。ご意見を頂き感謝申し上げます。

今後、教育委員会の中で調整をしていただきまして、予算編成に向けた方針等をまとめ、ご提示いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。協議題2「令和4年度の市政運営に関する基本方針について」は、以上とさせていただきます。

◎その他

○市長 それでは、次第の「2 その他」といたしまして、本日の協議題のほかにお気づきの点などございましたらお願いいたします。

特によろしいですか。

○市長 それでは、以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

○事務局 次回、今年度第2回総合教育会議の開催につきましては、12月を予定しておりますが、日程の詳細につきましては、後日改めて調整をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○市長 例年ですと7月に第1回を開催しておりましたが、コロナの感染が非常に拡大していた時期でもありましたので、本日が第1回となりました。年内、もう一度お会いできますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日の開催につきましては、大変ご多忙のところお時間を頂き、また、熱心にご協議を頂きまして、ありがとうございます。以上をもちまして、令和3年度第1回府中市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

以 上